



(財)三重こどもわかもの育成財団 機関誌

# わかすぎ

2 0 0 8

第121号



平成20年6月発行

親子で話そう 今日の出来事 一日一回!



「ステキなおうち」

9歳女児 第24回児童文化  
奨励絵画展・入賞作品



「最強な魚!？」

9歳男児 第23回児童文化  
奨励絵画展・入賞作品



「クビナガザウルス」

4歳男児

ほくがかんげえたまきょうりゅうだよ

「乳児院・児童養護施設エスペランス四日市の子どもたちの作品」

編集発行

(財)三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 三重県松阪市立野町1291  
中部台運動公園内

TEL : 0598-22-4911 FAX : 0598-23-7792  
URL : <http://www.mie-cc.or.jp>

## index

02 「三重県内の公立・私立の保育所・幼稚園への  
アンケート調査」実施中間報告

04 平成20年度事業計画

06 わかすぎ時評7 『家庭』という基  
本の型は『社会』での適応力を育てる

08 編集後記

# 「三重県内の公立・私立の保育所・幼稚園へのアンケート調査」実施中間報告

三重県青少年育成アドバイザー研究会 中西智子 川北かおり 室谷幸秀

三重県青少年育成アドバイザー研究会は、平成19年度に公立・私立の保育所・幼稚園から保護者との関わりについてアンケートを実施した。調査地区の対象は表1のように、四日市市・亀山市・伊賀市・津市・伊勢市の5つの市とし、公立と私立の保育所及び幼稚園へ304部を送付した。回答数は233部(77%)であった。結果報告はアンケート対象の全ての保育所及び幼稚園と協力いただいた市教育委員会・福祉担当部局へ発送した。

## 調査結果

### I 園数・園児数からみる公立と私立の比較

(表1) 5市の公立・私立の保育所・幼稚園回答数(園)

区分 市別	公立 保育所	私立 保育所	公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 幼保一体	計
	回答園 (送付園)	回答園 (送付園)	回答園 (送付園)	回答園 (送付園)	回答園 (送付園)	
四日市	21(30)	13(17)	21(23)	8(15)	1(1)	64(86)
亀山	9(9)	4(4)	4(5)	0(1)	0(0)	17(19)
伊賀	17(22)	12(14)	0(2)	1(2)	0(0)	30(40)
津	20(29)	21(28)	32(42)	6(12)	0(0)	79(111)
伊勢	14(14)	14(14)	8(8)	7(12)	0(0)	43(48)
全体	81(104)	64(77)	65(80)	22(42)	1(1)	233(304)
回答率	78%	83%	81%	52%	100%	77%

(図1) 1施設あたりの平均幼児数(人)

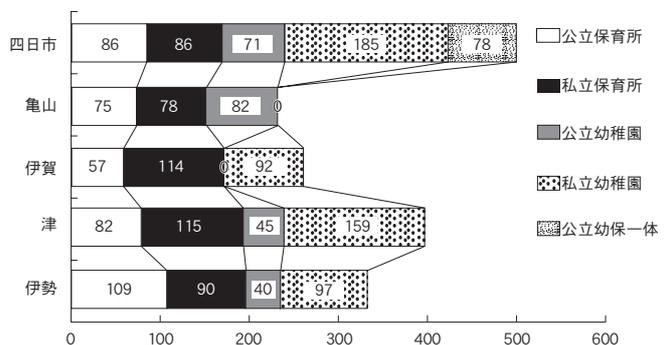


表1は、公立・私立の保育所・幼稚園の数(送付数)と回答のあった数である。表1のように、津市と伊勢市の保育所数は公立と私立に差はみられない。幼稚園数については、伊勢市では私立が公立より多く、伊賀市は同数であり、四日市市・亀山市・津市では私立より公立が多い。図1は、回答のあった保育所・幼稚園一施設あたりの平均幼児数である。

保育所では、図1のように亀山市と四日市市では一施設の園児数は私立と公立でほとんど差が見られない一方で、伊賀市の保育所では一園あたりの幼児数が私立は公立の2倍の差が見られた。

幼稚園については、亀山市からの公立と私立からの回答が無かったが、伊勢市と津市と四日市市の公立と私立の一園の園児数を比較すれば、2倍から3倍の差で私立の園児数は公立より多い。

四日市市では、公立の幼保一体化施設が一園あり、78人が通っている。

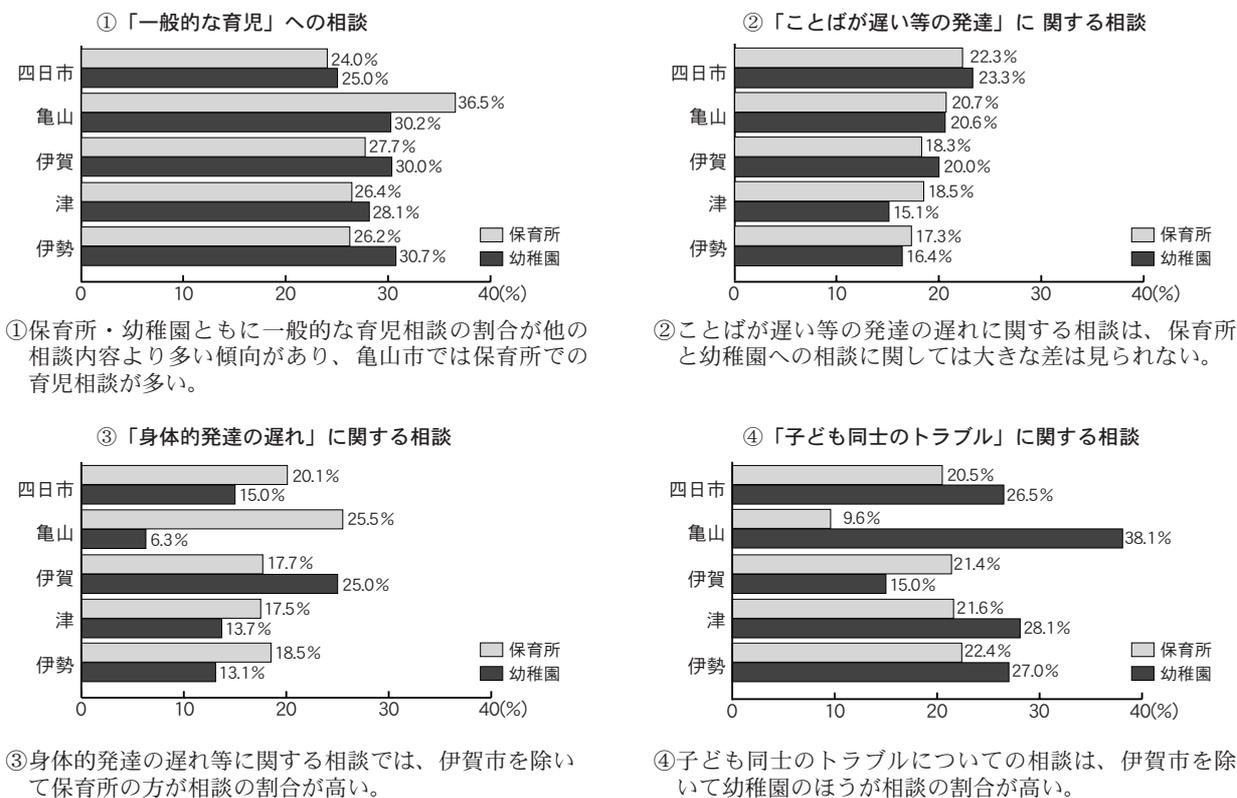
### II 保護者からの相談

(表2) 相談に来る保護者の家庭環境 (%=相談に来る保護者の家庭環境/回答のあった区分別園数)

園区分 家庭環境	公立保育所		私立保育所		公立幼稚園		私立幼稚園		公立幼保一体		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
	順位		順位		順位		順位		順位		順位	
1.核家族	62	75.6	59	92.0	59	90.8	20	90.9	1	100.0	201	86.3
2.祖父母と同居	41	50.0	32	50.0	39	60.0	10	45.5	0	0.0	122	52.4
3.母子家庭	48	58.5	44	68.8	17	26.2	7	31.8	1	100.0	117	50.2
4.父子家庭	9	11.0	13	20.3	6	9.2	4	18.2	0	0.0	32	13.7
5.祖父母と子ども の家庭	8	9.8	8	12.5	1	1.5	2	9.1	0	0.0	19	8.2
6.その他(福祉施設等)	1	1.2	3	4.7	2	3.1	0	0.0	0	0.0	6	2.6
回答のあった園数	81		64		65		22		1		233	

表2のように、公立・私立、保育所・幼稚園のいずれも、相談に来る保護者の家庭環境は核家族の保護者の割合が最も高い。保育所と幼稚園の比較では、祖父母と同居の場合には保育所の保護者より幼稚園の保護者が相談に来る傾向がある。家庭環境は祖父母と同居、母子家庭と父子家庭が公立・私立での相談順位が同じである。

(図2) 相談内容別による保育所と幼稚園の比較



### Ⅲ 公立・私立の保育所・幼稚園の選択理由（上位5位まで）

(表3)

公立保育所		私立保育所		公立幼稚園		私立幼稚園	
選択理由	%	選択理由	%	選択理由	%	選択理由	%
1位 小学校区を考慮して	92.7	1位 兄・姉が入園(卒園)している	85.9	1位 小学校区を考慮して	93.8	1位 兄・姉が入園(卒園)している	100
2位 兄・姉が入園(卒園)している	86.6	2位 小学校区を考慮して	71.9	2位 兄・姉が入園(卒園)している	89.2	2位 教育方針に共鳴して	86.4
3位 早朝保育を行っている	39.0	3位 保護者の知人の子どもが入園している	64.1	3位 金銭的理由	69.2	3位 信頼できる先生がいる	59.1
4位 保護者の知人の子どもが入園している	35.4	4位 延長保育を行っている	64.1	4位 教育方針に共鳴して	64.6	4位 小学校区を考慮して	54.5
5位 当園の子育て支援を経験して	31.7	5位 信頼できる先生がいる	57.8	5位 当園の子育て支援を経験して	50.8	5位 保護者の知人の子どもが入園している	50.0
						5位 園の施設・設備が充実している	50.0
						5位 運動会、文化行事等に賛同して	50.0

- 1) 保育所と幼稚園の選択理由の1位は、公立では「小学校区を考慮して」、私立では「兄・姉が入園(卒園)している」である。
- 2) 公立保育所では「早朝保育を行っている」が3位、私立保育所では「延長保育を行っている」が4位にあり、保育時間を延長していることが上位の選択理由となっている。
- 3) 公立の保育所と幼稚園の選択理由では「当園の子育て支援を経験して」が共に5位にある。
- 4) 公立と私立の幼稚園では選択理由に「教育方針に共鳴して」が共通しているが、保育所の選択理由の5位までには表れない。
- 5) 私立幼稚園では「園の施設・設備が充実している」「運動会、文化行事等に賛同して」などが選択理由にある。
- 6) 私立保育所と私立幼稚園選択理由の共通点は、「信頼できる先生がいる」である。

#### 最後に

三重県内5市の公立・私立の幼稚園及び保育所にご協力いただき、それぞれの就学前教育(保育)の立場が浮かび上がった。今回の中間報告は調査結果の単純集計からの報告であるが、この貴重な資料の考察を進めて次回に報告したい。多忙な中、調査にご協力いただいた各関係者に心から感謝の意を表します。

# 平成20年度事業計画

## ■ 少年の主張三重県大会の開催

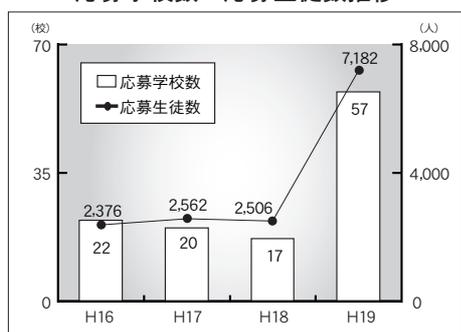
中学生が日ごろ感じていることや考えていることを広く県民に主張することにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考えるとともに、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として、1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して始められました。

平成19年度から県内各地での開催になり、応募生徒数の大幅な増加という成果がありました。

平成20年度は、南勢志摩地区（伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・玉城町・大紀町・南伊勢町）で実施し、今後の開催場所も以下の予定で準備を進めています。

- 開催月日：平成20年8月24日（日）
- 開催場所：伊勢市生涯学習センター いせトピア 伊勢市黒瀬町562-12
- 連絡先：事務局 財団法人三重こどもわかもの育成財団 TEL 0598-22-4911

応募学校数・応募生徒数推移



## ●来年度以降の

### 少年の主張三重県大会の開催場所

- 平成21年度 津地区（津市）
- 平成22年度 鈴亀地区（鈴鹿市・亀山市）
- 平成23年度 伊賀地区（伊賀市・名張市）
- 平成24年度 松阪地方（松阪市・明和町・多気町・大台町）
- 平成25年度 紀北地区（尾鷲市・紀北町）
- 平成26年度 桑員地区（桑名市・いなべ市・東員町・木曾岬町）
- 平成27年度 紀南地区（熊野市・御浜町・紀宝町）

## ■ 児童健全育成事業と青少年育成事業の実施（新規事業）

### ○「みえ青少年伝統芸能オンステージ」開催日／10月18日(土) 場所／三重中京大学

三重県ならではの伝統芸能継承に携わる中学・高校生に、その芸能を披露してもらう場を提供します。サークルや学校等のクラブ活動、地域で活躍する団体に広く声をかけ、頑張っている青少年育成を応援します。「子育てフェスタin松阪（松阪地区の子育て支援を目的としている）」の事業と同時開催。

### ○「みえ青少年カプラ造形コンテスト」

募集期間／7月12日(土)～10月15日(水)

素朴な積み木「カプラ」をつかって、中学・高校生を対象とした造形コンテストをおこないます。シンプルな木のおもちゃだからこそ、想像力が作品づくりに求められます。課題「夢のお城」をイメージした作品をつくり、3人以上1組で応募ください。カプラは、参加希望者への貸出も行います。



### ○「みえ青少年デジタルフォトコンテスト」募集期間／7月12日(土)～11月15日(土)

「友だち・なかま」をテーマとし、中学・高校・大学生を対象に作品を募集します。作品は、主としてデジタルカメラで撮影した人物写真。「友だち・なかま」と過ごす貴重なひと時を記録に残してもらいたいフォトコンテストです。

## ■ 当財団では、企業・団体からの協賛を受け付けています。

対象事業は、「少年の主張三重県大会」と「青少年の生き生き創造力活用事業」です。

ご協賛いただいた、企業・団体様には、名称等を当財団機関誌やホームページに掲載させていただきます。

### ※今後の事業予定

- ・平成20年 8月 2日（土）は、夏のこども向け共催事業「M祭！2008」（三重県総合文化センター）
- ・平成20年10月 4日（土）は、「青少年育成市町民会議 意見交換会」（三重県総合文化センター）
- ・平成21年 1月24日（土）は、「青少年育成指導者のための研修会」（三重県総合文化センター）

## ■ 地域活動者研修会事業の実施

(社) 青少年育成国民会議が始めた『大人が変われば、子どもも変わる運動』で推進している『地域の子どもは地域で育てる』を合言葉とした青少年育成の輪を広げるために研修会を実施します。

平成19年度は、県内6ヶ所において、総数924名の参加がありました。

平成20年度は、県内7ヶ所で各地区青少年育成市町民連絡協議会と当財団が連携し、よりいっそう充実した研修会を行なっています。

各地区の開催日は、ホームページにて掲載していきます。



伊賀地区青少年育成市町民会議連絡協議会「地域活動者研修会」の様子

## ■ 地域活動支援事業の実施

青少年育成市町民会議又は青少年の健全育成運動の推進を図ることを目的として実施する事業です。

・平成19年度は、北勢地区から紀南地区までの16団体に助成しました。

・平成20年度事業助成団体の決定は、7月上旬の予定です。

昨年の各団体の報告書では、「積極的にアイデアを出しながら取り組むことができた」「子どもたちから声をかけてくれることが多くなった」などの成果が見られ、「最近、海辺の子どもでもトコロテン（寒天）の作り方をしらない」という地域の子どもたちを心配する声には、漁村の生活や文化をあらためて伝えることができたという報告が寄せられています。この事業では「すごい！。えっ、こんなこと！。これからどうなるの？」という子どもたち自身のすなおな気持ちも届けられています。

平成19年度事業実施分布図



## ■ 機関誌「わかすぎ」の発行

機関誌「わかすぎ」は、青少年育成国民運動の普及・啓発を図ることを目的とし、全国の育成指導者をはじめ、多くのおみなさまに読んでいただいております。第118号は桑名市教育委員会長島支局、第120号は名張市青少年補導センターといった各地区の青少年育成市町民会議の地域活動を紹介させていただきました。平成20年度、毎号10,000部を年3回発行し、より一層、青少年育成国民運動の普及・啓発につとめていきます。



第118号 2007年6月発行



第119号 2007年10月発行



第120号 2008年2月発行

「わかすぎ」各号は、当財団のホームページからも、ご覧になることができます。どうぞ、ご利用ください。

## 『家庭』という基本の型は『社会』での適応力を育てる



理事長 桑名 聡さん

「日本人のまなごしは子ども・高齢者へ優しい」という誇りをもっていたのですが、今では児童虐待や高齢者虐待が話題になるこの頃です。平成20年4月から改正児童虐待防止法が施行され、児童相談所に家庭への強制立ち入りの権限を与えました。

「乳児院・児童養護施設エスペランス四日市（※1）」には、保護者のいない児童や虐待されて保護された0歳から18歳までの子どもが生活しています。さらに、家庭支援専門相談員が休館日無しで、子どもとの関わり方に悩む保護者と解決法を見つける宿泊施設(親子でゆっくり過ごせるバス・トイレ・キッチンつきの部屋)を用意しました。海外の福祉施設に関する調査へも意欲的な桑名さんからお話を伺いました。

(※1)「乳児院・児童養護施設エスペランス四日市」は平成15年4月、四日市市泊村にアパティア福祉会によって設置。平成18年、家庭に近い生活環境として「地域小規模児童養護施設エスペランス笹川」を設置。平成19年「児童養護施設エスペランス桑名」設置。



四日市市立「希望の家」の民営化によって現在の「乳児院・児童養護施設エスペランス四日市」が誕生しました、ここを引き受けていただいたお気持ちからお話いただけますか。

理事長： そうですね。これは私ども法人の理念といえますか、私の人生の道標というものが働いたと思いますね。私は歯科の診療所を30年前に開業しまして、何とか経営の目処が見ついた頃思ったのですが、地域があって初めて診療所は成り立っているのですから、地域でいま必要とされていることはなんだろうと考えてみました。

例えば、私の趣味のサッカーですね、当時日本サッカー協会は、小さい子からお年寄りまで、あるいは性別を越えてどんどん輪を広げて、地域に根づいた地域スポーツの構想で進んでいました。どのスポーツをみても、高校を卒業したら活躍の場が少ないので、ドロップアウトしてしまう。サッカーチームとして継続的な活動の場として、社会人チームの選手が幼児の指導をできるような体制を作った。その辺のところが私のルーツで、地域で困っている部分を何とかしたいという発想です。

四日市市が「希望の家」を民営化して建て直しを図りたいということで募集をした。それでは、うちも参加してみましようということがきっかけですね。たまたま評価いただいて、委託を受けるということになったのが経緯かと思います。



「希望の家」を初めてごらんになられて印象はどうでしたか？

理事長： なくてはならない施設だとは思いつつ、できれば無い方が良くないというのが本音でした。私はエモーション(emotion)で動いていく人間なので、無い方が良く、でもあるのであれば「本物」ですね。子どもたちがここで暮らして良かったなあ、という一種の感動みたいなものが湧き上がってくる施設にしなければいけないとね。運営の中身に関しましても、法人として新たな事業でしたので、何とかしようと頑張っています。



今のエスペランスを作っていた時に、意識されたことは。

理事長： うちの法人が最初に始めたのは特別養護老人ホームでした。介護の福祉施設で、老人ホームという枠を超えた「ああ、こんな老人ホームもあるんだ」という部分をイメージして作ったんです。エスペランス四日市の新しい建物に関しましても、子どもたちが喜んで生活できる、地域の方々

に「あれなんだろう」と思っていたいただけるようなインパクトのある生活空間を作って運営もご理解いただき、ということで現在の新しい施設が歩み始めたのです。地域密着型の養護施設として地域の方々に認められる施設ですね。

## 子どもの背負った課題を一緒に乗り越える〈家庭的な〉施設

Q

「エスペランス四日市」がスタートしてから、家族のように生活できる一般住宅の「エスペランス笹川」を用意されましたね、どういうきっかけでしょうか。

理事長： 「家庭的な」という言葉を使いますが、子どもたちにとっては本当の家庭ではないですね。私も家庭っていうのは一体なんだろうと悩みました。血が繋がってなくても育ての親がいれば家庭だろうかとか、なかなか結論は出しにくい部分です。しかし、何らかの形を提示するってということが必要で、少人数で学校の生活の延長線上ではない雰囲気的生活スペースを提供することは、絶対に間違いではないと考えました。少人数で生活できるハードといいますか、準ソフトを考えました。それが本当に正しいかどうかは難しい部分があると思いますけれどね。

Q

笹川団地の家で生活する子どもたちをごらんになって、いかがですか。

理事長： ああいった家庭的な一戸建ての家で生活するにふさわしい状態の子どもは、特に個々の対応を求めている子どもたちです。細やかに子どもたちの様子を観察できますから、非常に雰囲気がいいと思います。

Q

そうすると小規模の家でない方が良いということも？

理事長： そうですね、やっぱり年齢にもよりますが、自立していく中で、下の子の面倒をみるだけではなくて、もっと上を向いて社会や自分を見ている子ですね。自分のために今一生懸命勉強する時期の高校生あたり。とにかく自分の生活を立てるのに集中しなければならない子には、必要性が薄れてくるのではないのでしょうか。

Q

笹川の家で生活する小学生の低学年が、学校の友だちを連れて来るようになったと伺いました。「遊びにおいでよ、うちにおいでよ」そういう気持ちに育っているということは、子どもにとっては友だちを呼べる我家ですね。

理事長： そうですね。将来はアパートだったり家だったりというところで暮らすのですから、大きな施設のようなところだけの体験では自立が遅れたりとか、上手く行かないと思うんですね。

児童養護施設に関しては、国の一つの事業で、なすべき事業の範囲が何処までなのかということも関与してきます。やっぱりいろいろな社会資源が動員されて始めて事業が成り立つことであって、そこで学校なども絡んでくるのかもしれない。児童養護施設の役割と限界はどうか、それに対するお答えをしなければならないと思います。役割として大切なのは、一人ひとりの子どもたちを見るということを追求していくことだと思います、結果全体を見るっていうことになってしまう。

子どもの様子、施設の中での環境、学校を含めた環境、それから親と絡んだ環境という、当然、職員の〈育ての親〉という要素が入ってきます。でも、具体的に職員へ親としての要素をどのような方向性で、子どもとかかわってもらおうかということについては、課題が多いです。そこまで力が及んでいない現状の中、限界を超えている部分に良い結果が付いてくるのは、子どもたちの力があってのことだと思います。



エスペランス笹川にて



子育てを放棄した親へはどのように。

理事長： 子どもって様々ですが、子どもにとって親というものはかけがえない存在なので、親に対するフォローということですね。

国が義務教育というレールをひいて、親が出来上がっているということは、やっぱり教育のあり方ってこのをを考えていかないと。社会とか親の親たちが作ったのが、今のうちの子どもたちの親ですから。私が言えるのは人間という生き物は、正しく教育を受けて、教養をつんで、道徳の気持ちを教え込めば、この地上で最もやさしい生き物です。

社会の中にひそむ問題は、ロジカルに研究して、時間をかけて対応していかなければいけないと思っています。だから何か制度をパッと作って効果があるかっていうと、私はそうではないと思うんです。



ここで生活しながら将来の自分なりの築きたい「家庭像」がイメージできるかもしれませんね。

理事長： そうですね。結婚して家庭を作る、そのイメージですね、しかし、子どもが生まれて、子どもをどう育てたらいいのかって時に、自分が家庭で子どもとして育てられた体験がないということで、どうしても施設と被ってしまうことが課題です。だから先ほどの地域密着型、小規模の児童養護施設を地域に作りました。現実には、その中で営まれている生活は、一般の家庭とは乖離していますよね。

「家庭的」っていう言葉にこだわりましたけれどね、あくまでも「家庭的」であって、「家庭」ではない。実際に自立して、結婚して子どもが生まれた時、子どもを親としてどう育てたらいいのかわからない、というのが現状ですね。一緒に暮らした職員さんと同じような対応はできるんですけども、自分が本当の親として子どもに対応する事が難しい。じゃ、「家庭の定義は何なのか」ってなかなか判らない事です。

やっぱりアフターということですけども、一緒に生活していましたから、時々遊びに来てもらったり、報告をもらったりします。ここで一緒に暮らしていた子同士が結婚したりとかありますね。



この施設でやっと生き心地がついた。みたいなのところでしょうか。自分だけでなくって、他にもそういう子どもがいたってということで、ある種の同士みたいな、仲間っていうか。

理事長： それはあると思いますね。全寮制の学校の生徒が、卒業後一生の友になることはよく聞きます。ここは学校ではないんですが、やっぱり食事とか、寝ることとか共にした仲間っていうのは、人間関係が深く長く続くみたいですね。18歳以降も何らかの関わりを持ってこの地域で暮らしている子どもたちがいます。



エスペランス四日市

(文責：中西智子)

## 編集後記

エスペランス四日市には正規のボクシングジムがあります。子どもたちはプロの選手の試合を観戦したり、本物のグローブでトレーニングをします。桑名さんは「どう頑張っても出来ないことは出来ないけど、毎日の積み重ね、良いことの積み重ねで、自分の可能性を自分で導き出していけるような基礎的な力を身に付けて欲しい。頑張ったときの感動が生きる喜びです。どのような境遇の子でも幸せになれるとしたら、自分で考えて克服していく事だと信じています。人は何かあった時に運命に流されるのではなく、運命を切り開いて進む回遊魚みたいな人間になって欲しいです。」とおっしゃいました。施設から自立して生きる子どもたちへ、課題を乗り越えて自分の可能性を自分で導き出す基礎力が必要とのお考えです。60歳になった中西ですが、回遊魚！めざします。 『わかすぎ』編集長 中西 智子